



【ウクライナへの援助】

ウクライナとその国境諸国のサレジアン・シスターズの
修道共同体による人々への援助と、
連帯の呼びかけに対する教育共同体の具体的な対応



ローマ(イタリア):ウクライナにおける紛争は進行中で、人々が安全な地にたどり着こうとしている中、サレジアン・シスターズの総長マードレ・キアラ・カツオーラと総評議員のシスターたちは、具体的な援助と受け入れで人々を支援し続けている**ウクライナ**、**ポーランド**、**スロバキア**の修道共同体からのニュースを受け取り続けています。また、世界中の教育共同体からも、数多くの連帯、祈り、寛大な支援の表明があります。



リヴィウの共同体では、シスターたちはボランティアや若者たちと一緒に、負傷した兵士を介抱するために、シーツを割いて、いくつかの包帯を準備しました。これは、1854 年、トリノーでのコレラが流行したときに、最も美しい祭壇掛けを病人のためのシーツとして持って行くようにと少年たちに渡した、ドン・ボスコの母マンマ・マルゲリータを思い出させる行為です。サレジアン・シスターズは**全員ウクライナに残っており**、食料、温かいお茶、包帯、衣服、そして人々と兵士のために必要な物を準備して、自分たちの使命を続行しています。**彼女たちは祈りながら、人々の近くに、人々と共にいます。**



サレジアン・シスターズの「聖ヨハネ・ボスコ」**スロバキア管区(SLK)**と**ポーランドの「扶助者聖マリア」(PLA)**と「ヤスナ・ゴーラの聖母」(PLJ)の**2つの管区**は、最も緊急性の高いニーズを抱えた難民たちを援助するために、国境付近の乗り換え駅や道路に赴いています。そこで彼女たちは**通訳**としての役割を果たし、旅のための**必要書類**を準備し、**温かい食事**を準備して配り、一泊、あるいは数日の**宿泊**を希望する人々を受け入れています。



シスターたちは、ボランティアや**他の修道会のシスターたち**と力を合わせて、ここ数日の寒さと人々の疲れを少しでも軽くするために、可能な限り全力を尽くしており、多方面から受け取るものに本当に感謝しています。一人のサレジアン・シスターはこう証言しています。「**他の修道会のシスターたちとの素晴らしい協働があり、多くの人々がボランティアとして集まっていて、大きな連帯があります。**」と。直接援助に関われないシスターたちは、継続的な祈りと自分たちの仕事を提供することによって、これらの取り組みを支えています。



ポーランドの2つの管区は次のような証言を分かち合ってくれています。

「私たちの修道院は家の扉を開きました。私たちは、家族、特に小さな子どもを持つ女性たちのための場所を約 100 箇所準備しました。家族は安全な場所、食べ物、必要なものすべてを受けることが出来ました。管区として、ウクライナから来た養護施設の子どもたちとその養育者たちを受け入れるという要請を受けました。**最初の出会いは、心の言葉が助けてくれます。**



サレジオ会員や Caritas と助け合いながら、私たちは多くのイニシアチブに参加し、取り組んでいます。私たちのシスターたちは国境に赴き、そこで通訳を手伝い、必要なものを運んでいます。私たちの学校では、衣類やその他の物品の収集が行われています。避難してきた子どもたちが日常生活に適合するのを助けるために、学校ではポーランド語のレッスンを提供しています。私たちは、最も緊急性の高いニーズを知るために「**神の母**」**準管区 (EEG: ベラルーシ、ロシア、ウクライナ、ジョージアの 4 か国が所属)**のシスターたちと継続的に連絡を取り合っています。

私たちのイニシアチブは、すでに子どもたちや若者たちのために夏の活動や様々なレクリエーションの機会の企画を考えている **VIDES ポーランドの若者たち**によって支えられています。家を見つけた女性たちは

すぐに教区に到着した人々を助けるために、自分自身を提供します。私たちにとって彼女たちは、軍とウクライナに残っている人々とのコミュニケーションを促進する架け橋のような存在で、また、新しいニュースや助けの供給源です。

ポーランドの人々は、**戦争から逃れてくる兄弟姉妹を助けたいという、開かれた心と大きな望み**をもっています。私たちは、私たちの事業体でだけではなく、近隣の小教区の人々とも祈りのうちに一致しています。私たちは、その支援と祈りのために私たちの修道会に感謝しています。」と。



マードレ キアラは、現地のサレジアン・シスターズが行ってくれていることすべてに感謝しながら、このコミュニケーションに次のように応答します。

「**苦しみと困難のこの瞬間に、あなた方の存在は、多くの人々にとって神からの愛撫のようなものです**」と。

マードレの「**一つの心で執拗に平和の賜物を願い求める祈りと連帯のイニシアチブのうちに、一致し続けましょう**」という呼びかけ（オンライン・ニュース 2 月 27 日号「ウクライナと連帯して」参照）に対する応えとしての**祈りへの責務**は、世界中のすべてのサレジアン・シスターズの共同体によって、しっかりと受け止められました。



中東・ヨーロッパ管区協議会(CIME)の管区長たちは、毎日正午に、共通の祈りによる出会いを提案しました。それは、平和のための一つの「**アヴェ・マリア**」の祈りと、それに続く射祷「**平和の元后聖マリア、私たちのために祈りください**」というものです。管区協議会の会長、シスター ペトゥラ・エジェリングは、「**私たちは、私たちの事業体の子どもたちや若者たち、そしてサレジアンファミリーのメンバーもこれに誘うことが出来**

ます。それによって、この瞬間、ヨーロッパの私たち全員が立ち止まり、祈りのために団結することが出来るのです」と、皆を励ましています。



この劇的な状況に共に現存するために、**サレジアンの世界から多くのイニシアチブ**が湧き出ています。世界中の教育共同体は、危険な状況下で、家もない状況で生きている人々に対する、子どもたち、若者たち、家庭の感受性を表すイニシアチブと愛情こもるジェスチャーで、大きな寛大さと連帯を訴えつづけています。



サレジアン・シスターズ修道会は、貢献や寄付を送信することが出来る手段を提供し続けます。その文書やフォームは[サレジアン・シスターズのローマ本部のウェブサイト](#)の【**ウクライナ緊急支援**】の項に示されています。

同時に、私たちは、戦争や暴力に苦しむ世界のさまざまな地域にいる人々、特に子どもたちや若者たちのために自分自身を捧げ続けているサレジアン・シスターズの修道共同体のことも忘れたくありません。

